山鹿市民医療センター開放型病院広報紙　7月号

Yamaga Medical Center

つばさ

発行所　山鹿市民医療センター　〒861-0593　熊本県山鹿市山鹿511番地　TEL 0968-44-2185（代）　FAX 0968-44-2420

第6回市民公開講座を開催しました

山鹿市は来年1月に新市発足20周年を迎えます。先般2月には健幸都市宣言が行われました。

山鹿市の健幸都市宣言を受け、当センターでは「地域の未来に向けての健幸都市と病院づくり」をテーマに3人の講師を迎え第6回市民公開講座を開催しました。当日は135名の方にご来場いただきました。

はじめに石河隆敏院長が「街づくりに向けた当院のあり方」として、生活の質を維持し穏やかで尊厳ある生活のサポートを行うために運営している診療体制の紹介や、地域のベースとなる医療提供体制に向けた将来ビジョンの講演を行いました。

次に、宮崎産業大学川島秀樹教授より「公立病院が果たす経済波及効果と医療政策」について、山鹿市や近隣地域の経済循環分析をもとに、公立病院群の経営は恒常的に厳しい状況であるものの、地域の雇用の受け皿の役割を果たしていることなど、行政と連携した医療・介護の体制づくりにおける存在意義を明示してくださいました。また今後の病院づくりとして高齢化の増加に備えた診療体制の拡充や地理的問題から救急医療などの住民の多様性の受け入れなどの示唆をいただきました。

最後に熊本大学の小川久雄学長から「熊本大学の改革に向けて」というテーマで、地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学づくりに向けた様々なイノベーションをご紹介いただきました。地方への医師派遣と地域医療貢献との関係や、企業との共同研究として半導体企業との積極的な連携に取り組まれていることなどから、熊本大学の改革活動と地域医療との関係性を理解することができました。

今回の市民公開講座では、当センターが行政・地元医師会と連携し市民の健康福祉の向上に取り組む姿、地域医療構想の策定に合わせた将来の在り方や目指す方向性をお示しできたように感じています。今後も健康で幸せな市民が集う「健幸都市」とそれを支える「病院」の役割を果たしてまいります。

（文責：看護部長　松本　和美）

基本理念

地域住民の生命（いのち）と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

① 患者さま中心の信頼される医療を行います
② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

第6回市民公開講座を開催しました…………P 1
看護の日の記念行事 …………………………P 2
鹿本地域緩和ケア研究会 ……………………P 2
医療最前線（157）……………………………P 3
第79回公開講演会のご案内 …………………P 3
外来担当医表（7月）…………………………P 4

看護週間行事「看護の日」イベントを開催して

　5月12日は、近代看護の発展に力を尽くしたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで「看護の日」とされ、全国的に様々なイベントが開催されています。
　この日は高齢社会を支えるために看護の心・ケアの心・助け合いの心の「3つの心」を育むきっかけとなるように設けられています。当センターでも恒例行事として、5月14日に城北高校の看護専攻科の学生さんにも参加していただき開催しました。
　当日は市民の皆さんに血圧測定、血糖測定、身長・体重測定、体脂肪率測定などの健康チェック、リハビリ相談、栄養相談、福祉用具展示コーナーを設け、活気あふれるイベントとなりました。

看護の日・看護週間PRラッピングバス

　参加した学生さんや市民の皆さんからは「とても勉強になった」「優しい声かけが良かった」「看護師だったのでナイチンゲールに関する行事に興味がありました」「毎年参加しています。来年も参加します」「賑やかなのが良い」「ありがたい」などの嬉しいお言葉をいただき、健康や看護について身近に感じていただく楽しい時間となりました。次年度も皆さんのお声を参考に継続していきたいと思います。　（文責：看護師長　豊福　貴子）

鹿本地域緩和ケア研究会

　5月23日（火）鹿本市民センター「ひだまり」において、第29回鹿本地域緩和ケア研究会を開催しました。
　この研究会は、がん患者さんへの緩和ケアの充実と地域への啓発活動等を目的に、鹿本医療圏の９団体の医療従事者及び医療関係者が中心となり、緩和ケアに関する講演会・症例発表を年２回開催しています。
　今回は、毎週金曜日に当センターの緩和ケア病棟へ訪問していただいている、認定臨床宗教師の芦田もと子先生にご講演いただきました。「臨床宗教師」とは、一般社団法人日本臨床宗教師会の認定資格を持ち、被災地や医療機関、福祉施設など公共の空間で心のケアを提供する宗教者のことです。
　患者さんやご家族との対話の中で印象に残っていることや緩和ケア病棟で活動するにあたり心掛けていることなど貴重なお話を聞くことができました。患者さんから「医者や看護師じゃなく、程よく他人だから話せる」という言葉を掛けられたこと。医療者には言いにくいことも臨床宗教師の芦田先生には話せる。芦田先生に話を聞いてほしいと思う患者さんの気持ちをしっかり受け止め、情報を医療者側と共有することで患者さんとご家族の思いや価値観を尊重したケアに繋げています。

　参加者からは、「命のしまい方はその人らしければそれでいい」という言葉が一番心に残った。という感想を多くいただきました。
　これからも医療者が思う「良い死」に捉われることなく、「その人らしい生き方」を支えていくために多職種で連携し、患者さんとご家族の思いに寄り添い、少しでもQOLの高い状態でその人らしい生活を送れるように支援していきたいと思います。
（文責：緩和ケア病棟副看護師長　大坪　美香）

医療最前線（157）

膵臓がんの治療

外科長
増田　稔郎

2024年4月から山鹿市民医療センター外科に赴任しました増田稔郎と申します。私は、これまでに肝胆膵のがんや消化管のがんの手術、治療を広く経験して参りました。今回は膵臓がんの治療についてまとめさせていただきます。

膵臓がんでは、他の多くのがんと同じように、「膵癌診療ガイドライン」、「膵癌取り扱い規約」が編集、出版されており、数年ごとに新しく改訂されます。これらのエビデンスに基づいた「標準治療」が、現時点で最も有効な膵臓がんの治療とされています。膵臓がんの標準治療には、主に「外科的治療法」、「放射線療法」、「化学療法」の3つがあります。切除が可能な膵臓がんの治療は手術が第一選択となり、切除不能な膵臓がんの治療は、放射線療法または化学療法、またはそれらを組み合わせた化学放射線療法が選択されます。

膵臓がんの主な手術には膵頭十二指腸切除術、膵体尾部切除術があります。膵臓がんの場所・大きさや、周囲の血管との位置関係によって術式を決定します。膵臓がん術後には、補助化学療法として6−12ケ月程度のS−1単独療法を行うことが推奨されています。一方、術前に補助化学療法を行ったほうがよいかどうかについては、まだ明確なエビデンスがありません。

化学療法は、主に切除不能の膵臓がんに対して行われます。ファーストラインの化学療法にはFOLFIRINOX療法（オキサリプラチン、イリノテカン、フルオロウラシルの3剤併用）、ゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法、ゲムシタビン単独療法、S−1単独療法があります。それぞれに有害事象などが異なり、年齢、全身状態や膵臓がんの進行度などで使い分けます。

放射線療法は、痛みを伴う切除不能膵臓がんや、骨転移などの疼痛に対する緩和的な治療として行われます。2022年、手術による根治的治療が困難な局所進行膵癌で、粒子線治療（陽子線治療や重粒子線治療）が保険適用となりました。手術療法と比較すると低侵襲とされる治療ですが、放射線療法は照射した局所のみの治療で、照射部位以外の場所（遠くのリンパ節や臓器など）への効果はありませんので、適応を十分に考える必要があります。

切除不能の膵臓がんでも、化学療法や化学放射線療法を行うことで、切除（コンバージョン手術）が可能になることがあります。私の前任地の熊本地域医療センターでは、切除不能膵臓がん422例（ベストサポーティブケアのみを含む）のうち7例が切除可能となり、コンバージョン手術を行いました。うち1名はコンバージョン手術後に5年以上無再発で生存中です。このような集学的治療の進歩により、膵臓がんの予後の向上が期待されます。

第79回公開講演会のご案内

（日本医師会生涯教育講座１単位）
取得カリキュラムコード　番号・コード名
53.　腹痛

下記により第79回公開講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

鹿本医師会会長　　幸村　克典
山鹿市病院事業管理者　　別府　透

記

日時：令和6年7月12日（金）19：00～
形式：ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)
会場：オンライン参加 / Zoomミーティング
会場参加/山鹿市民医療センター1階医療研修センター
演題：「慢性膵炎について」
司会：山鹿市民医療センター
消化器内科長　本原　利彦　先生
演者：山鹿市民医療センター
消化器内科　中垣　貴志　先生

参加費：無料
【参加要領】下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。
（参加URL）：https://zoom.us/j/93566823275
（参加QRコード）⇒
ミーティング　ID：935 6682 3275
パスコード： 921680

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。
※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。

お問合わせ先　山鹿市民医療センター
地域医療連携室　水田、西田
TEL:0968-44-2185　FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会
山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表 7月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※ 後藤 由比古	※ 赤池 公孝	※ 後藤 英介	—	※ 後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※ 宮本 英明
消化器内科	中垣 貴志	竹野 洋司	本原 利彦	竹野 洋司 中垣 貴志	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 中山 智子	中山 智子 清水 博	大庭 圭介 清水 博
整形外科 （紹介外来制）	横田 秀峰 中原 達秀 井手 淳之介	工藤 智志 中原 達秀 井手 淳之介	手 術 （担当医）	工藤 智志 横田 秀峰	手 術 （担当医）
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手 術 （担当医）	別府 透 石河隆敏 / 増田稔郎 辛島龍一 / 織田枝里	手 術 （担当医）	別府 透 石河 隆敏 増田 稔郎
乳腺外科	—	※ 冨口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	※ 原田 成美	—	※神波 大己 教授	—
小児科	小澄 将士	小澄 将士（午前） ※石井 真美（午後）	小澄 将士 （午後：予防接種）	小澄 将士（午前） ※石井 真美（午後）	小澄 将士
	＊小児科の午後は、16：00受付終了となります				
耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科（予約制）	—	非常勤医師	非常勤医師	—	—
産婦人科	非常勤医師（午後） （受付14:00～16:00）	※片渕美和子（午後） （受付13:00～16:30） 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師（午前） ★非常勤医師（午後） （受付14:00～16:00）	非常勤医師 （午前）
緩和ケア内科（予約制）	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外 科 医（午前） 吉岡 明子（午後）	吉岡 明子	大庭 圭介（午前） 清水 博（午後）	奇数週：担当医 偶数週：吉岡明子	外 科 医（午前） 消化器内科医（午後）
健診	髙木 茂	髙木 茂	髙木 茂	髙木 茂	髙木 茂

◎診療受付時間は、8:30（予約再診の方は8:00）～11:00
◎当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。
※ 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来【予約制】 7月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
外来化学療法	※ 宮本 英明	毎週 金曜（がん薬物療法専門医）	各診療科
禁煙外来	坂田 和子	毎週 月曜（午後）	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜（午後）	Aブロック
小児科予防接種	小澄 将士	毎週 水曜（受付時間13:30～16:00）	Aブロック
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜（午後）	Bブロック
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜（午後）	Bブロック
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。
◎急患の場合は、この限りではありません。
ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。
◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター
〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
TEL（代表）0968-44-2185 FAX 0968-44-2420
http://yamaga-medical-center.jp